



特別号(平成 26 年 12 月 10 日)

店舗スタッフと山岳遭難現場をつなぐ  
特別隊員  
**島崎 三步** の「山岳通信」

この通信はお客様と接する登山用品店舗スタッフの方に、長野県の山岳地域で発生した遭難の代表的な事例を随時お伝えし、「安全登山のアドバイス」のきっかけとしていただくため、発行しています。

**【年末年始の山岳遭難発生状況】**

(平成 25 年 12 月 29 日～平成 26 年 1 月 3 日)

遭難事故 **8** 件 (うち死亡 **1** 人)

～山岳遭難は他人事ではありません、十分な準備と適切な判断が必要となります～

**【遭難事例】**

○ 12 月 29 日 八ヶ岳連峰 赤岳 [神奈川県 男性 48 歳 負傷]

2 人パーティでバリエーションルートである赤岳主稜を登はん中、ロープを付け先頭で登っていた遭難者がバランスを崩し 2～3 m 滑落し、足首を骨折した。

遭対協隊員 2 名が出動し、稜線上の山小屋に收容した後、県警へリで收容した。



**【アドバイス】**

アイゼンを履いての冬季登攀は高度な技術と経験が必要です。

今回の遭難は天候が良かったため、スムーズな救助となりましたが、悪天候が続いた場合は救助活動が難航します。

- 12月30日 南アルプス 仙丈ヶ岳 [東京都 男性 57歳・48歳 (2名) 負傷]

11人パーティで丹溪新道を仙丈ヶ岳に向け登山中、ブロック状の落雪に巻き込まれ2名が滑落し負傷、パーティの同行者が稜線上まで引き上げ、県警ヘリで収容した。



【アドバイス】

天候や気温、積雪の状態により、斜面では雪崩や落雪の危険性が高まります。

地形にあわせた登山ルートを慎重に選択し、ロープも有効に使用して、リスクを軽減しましょう。

同行者が負傷し動けない場合は、出来る範囲でセルフレスキューを行うこととなりますが、安全を最優先し、無理な行動は控え救助機関の指示に従いましょう。

- 12月30日 北アルプス大天井岳 [神奈川県 男性 54歳 負傷]

3人パーティで中房から大天井岳に向け喜作新道を縦走中、スリップして滑落、負傷、悪天候のため同所でビバーク。

救助要請を受け、県警救助隊（機動隊、大町署）、遭対協隊員が徒歩で現場に向かい、翌日の夕刻に周辺の山小屋に収容し、1月1日同行下山した。



【アドバイス】

冬の稜線は凍結している場合が多く、また、冬型が強まれば強風になりバランスを崩しやすくなります。

天候の悪化が予想される場合には、行動は控えましょう。

- 12月30日 八ヶ岳連峰 天狗岳〔滋賀県 女性32歳、京都府 女性31歳 負傷〕

小屋に滞在中、他の登山者がこぼした熱湯を足等に受け、火傷を負い救助要請。

翌日は天候不良のためヘリによる救助が出来ず、県警救助隊、遭対協隊員が出動し、同行下山した。

- 1月1日 北アルプス常念岳〔大阪府 男性44歳 無事救出〕

単独で中房から入山し、常念岳を經由し上高地に下山する予定であったが、入山3日目に疲労と悪天候のため行動不能となった。

常念小屋の冬季避難小屋で2日間待機し、天候が回復したため、消防防災ヘリで救助した。

【アドバイス】

冬の単独登山は強靱な体力と経験、技術が必要となります。

また、冬季の場合、疲労や強風の影響から低体温症となり死亡する可能性が高まります。

- 1月1日 北アルプス槍ヶ岳〔高知県 男性51歳 負傷〕

3人パーティで大町市七倉から入山し、硫黄尾根を經由し槍ヶ岳をめざしていたが、途中スリップし約20m滑落し負傷した。

同所からアマチュア無線により救助要請を行い、それを傍受した松本市内の登山愛好家が警察に救助要請した。

翌朝、県警ヘリで救助した。



【アドバイス】

冬季の北鎌尾根は凍った岩壁を登攀する高度な技術と、長期の行程に耐えられる強靱な体力が必要となります。

年末年始に同ルートに挑戦し、体力や技術不足（未熟）のため救助要請する事案が後を絶ちません。

自らの登山技術や体力を総合的に判断するとともに、十分な準備と慎重な行動に心がけましょう。

○ 1月 2日 中央アルプス経ヶ岳〔長野県 男性 25歳 無事救助〕

単独で日帰り予定で入山し、下山中に道に迷い救助要請。  
救助要請は、既に日没後であったため、同夜はビバーク。  
翌朝、伊那署員、駒ヶ根署員（県警救助隊）、遭対協隊員が出動し、  
遭難者を発見し同行下山した。

○ 1月 2日 北アルプス槍ヶ岳〔広島県 男性 65歳 死亡〕

単独で上高地から入山し、横尾尾根経由、南岳、槍ヶ岳を登山後、  
岐阜県の新穂高温泉に下山する予定であった。  
下山予定日（1月2日）を過ぎても帰宅しないことから、松本署に  
救助要請があり、翌日より県警へり、県警救助隊により予想されるコ  
ースや避難小屋を捜索したが発見には至らなかった。  
遭難者は、多数の海外登山の経歴を有するベテラン登山者であった。  
登山仲間が定期的に捜索を続けた結果、同年6月上旬、横尾尾根槍沢  
側斜面で遺体で発見された。



【アドバイス】

単独登山は、トラブル発生時に自分では  
救助要請が出来ない場合があります。

どんなに体力、技術、経験があっても遭  
難し行方不明となる可能性はあります。

\* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」[mt-toursim@pref.nagano.lg.jp](mailto:mt-toursim@pref.nagano.lg.jp) まで  
お寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝